

東日本防滑振興会

都庁で滑り抵抗係数測定

協同組合東日本防滑振興会(清水雅雄理事長)はこのほど、都庁本庁舎において滑り測定(CSR測定)を行った。当日は雨上がりで滑りやすい条件下、「滑り測定士」が都庁通路でCSR(滑

り抵抗係数)を測定、転倒事故の防止に向けてデータを集め、管理者へ提供した。写真。

高齢化社会の進展から歩行者の転倒事故が増、特に公共空間における安全性の確保が求められている。同振興会は2010年11月9日に国土



交通省から認可、防滑の認知度向上へ取り組んでいる。今回の測定は、都財務局建築保全部庁舎整備課の発注として、不特定多数の人が行き交う都庁における「足もとの安全」を確認したもの。東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアルで

は、CSR値が0.4以下の場合は、「滑りやすく危険」とされ、都庁各所で測定機(ONO・P PSM)を用いて乾燥状態、湿潤状態で客観的に調査を行った。